

平成 27 年度 第 2 回 羽曳野市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 議事録

日 時	平成 27 年 11 月 8 日 (日) 15:30~18:30
場 所	羽曳野市役所別館 2 階 研修室
出席者	<p>会 長：吉川 耕司 (大阪産業大学人間環境学部教授)</p> <p>副会長：黒川 健三</p> <p>第 1 号委員 (産業関係)：安田 利貞、山下 正行</p> <p>第 1 号委員 (教育関係)：鎌谷 裕子、黒川 通典、鶴谷 昌也</p> <p>第 1 号委員 (金融関係)：坂本 浩之、政野 智昭、蓑毛 靖守</p> <p>第 1 号委員 (労働関係)：油谷 孝行</p> <p>第 2 号委員 (市民代表)：中川 哲男、西 聖子</p> <p>第 3 号委員 (市議会議員)：金銅 宏親、上藪 弘治</p> <p>事務局 羽曳野市…白形理事、南口課長、道簾課長補佐、菅原主幹、          升本主幹、内本主幹          ランドブレイン (LB) …山北、松本</p>
次 第	<p>(1) 開会</p> <p>(2) 議事</p> <p>(3) その他</p> <p>(4) 閉会</p>
配布資料	<p>(資料 1) 「羽曳野市人口ビジョン」及び「羽曳野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の全体イメージ (素案)</p> <p>(資料 2) 「羽曳野市人口ビジョン」及び「羽曳野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の全体イメージ (案)</p> <p>(報告資料 1) 地方創生先行型 6 事業進捗状況</p> <p>(参考資料 1) 基本目標別事務事業 (H26~28 年度) 地方創生用【抜粋版】</p> <p>(参考資料 2) 羽曳野市地方創生アンケート調査結果の概要 (案)</p> <p>(未定稿) 総合戦略アイデア集</p>
■議事概要	<p>(1) 開会</p> <p>(2) 会長挨拶</p> <p>日曜日のご多忙のところ、お集まりいただきお礼申し上げます。実のある議論をできればと思うので、会議進行へのご協力をお願いしたい。</p> <p>(2) 議事</p> <p>≪資料の説明≫</p> <p>吉川座長：今日配っていただいた資料 1 の 3 つの重点項目と、資料 2 の「まち」「ひと」「しごと」</p>

とは、縦糸と横糸の関係であり、マトリックスだと考えてよいのか。国が示す「まち」「ひと」「しごと」に対して、羽曳野市の総合戦略の柱としては、3本立てという理解でよいのか。

事務局：前回配布した人口ビジョンの24頁に、目指すべき将来の方向性として黄色の丸が4つあり、その真ん中にまちの創生を描いている。この部分を、資料1では3つの柱にまとめなおしており、この3つの柱を上手に進めていくことによって、まちの創生につなげていければというイメージとなっている。

吉川座長：例えば、戦略の柱の1つめ、「地域ブランド力の向上に向けた資源の発掘・整備による地域経済の発展」という柱は、まちの創生にも、ひとの創生にも、しごとの創生にもつながる部分があるという理解でよいのか。

事務局：そうである。

上藪委員：報告資料の1で、先行型6事業の進捗状況をお示しいただいたが、議会で提示されたこれらの予算が1億円程度だったと記憶している。それぞれどれだけの予算がついているか、お示しいただければと思う。

事務局：数字だけ、口頭でお答えする。①地域資源を活用した観光振興事業は、国の交付金が57,918千円、全体の事業費70,976千円となっており、一部、市も費用を入れて事業を進めている。②子ども笑顔・未来育成事業は、国の交付金が26,200千円、全体の事業費は29,364千円となっている。③地域しごと支援事業は、国の交付金が3,000千円、全体の事業費も同額で、市の持ち出しはない。④羽曳野市ガーデン倶楽部事業は、国の交付金が1,500千円で、これも市の持ち出しはない。⑤既存施設を利用した多世代交流事業は、国の交付金として10,000千円、全体では、福祉関連事業も絡めているので少し市の持ち出しがあり、総事業費で約35,000千円程度予算計上している。⑥羽曳野市総合戦略策定事業は、国の交付金が10,000千円となっている。

上藪委員：総合戦略アイデア集をお示しいただいたが、来年度の新型交付金は、2分の1補助になるとの話もある。予算の検証等を行っているのか。

事務局：資料のはじめに書いているが、交付金に頼らない持続可能な施策展開を効果的に行い、まち・ひと・しごとの創生につなげる目的で事業例を検討したものであり、検証は行っていない。あったらいいなと思うものやこの取り組みは、夢はあるが実現は不可能ではないかというものも含め、当課が独自で作成したもので未定稿資料として取組案をまとめたものであり、これをきっかけに、みなさんから、意見や提案をいただければと思う。

吉川座長：推進会議の着地点としては、1つのプロジェクトに絞り込んでアイデアを出してもよいと思う。アイデア集の中で、これは産官学がうまくかみ合って進められるのではないかと、さらに派生させた取組であるとか、新たにこんな取組はどうかなど、ご意見、お知恵をお借りしたい。油谷委員より、関連するデータを提供いただいた。ご説明いただければと思う。

油谷委員：しごとの議論をするうえで、現状を理解してもらうために資料を作成させてもらった。

ハローワーク河内柏原管内の4市と大阪府の比較を入れている。有効求人者数とは、ハローワークに登録されている方の人数であり、羽曳野市に住んでいる人の内数である。平成27年度上半期1か月の平均であり、在職中の方も含まれる。府内構成比については、人口と同じような値となっている。事業所数は、経済センサスから引用している。有効求人数も平成27年度上半期の平均であり、求人は原則本社の所在地から出てくるが、羽曳野市に就業場所がある求人数である。事業所数の構成と若干数字が離れている。有効求人倍率をみると、大阪府では平均すれば一人の求職者に対して1件以上の求人があるが、羽曳野市単独でみれば、0.59倍となっている。これは羽曳野市から他の市に働きに行かれているケースが多いのだと思う。特徴的なものは、求人の多い産業と職種として、大阪府全体では、医療福祉系が23.5%であるのに対して、羽曳野市では36.9%と大きくなっている。職種でみると、サービス業や専門技術が多く、ホームヘルパーはサービス業に含まれ、介護福祉士は専門技術職に含まれる。福祉関連で整理すると24.8%となり、4件に1件の求人が福祉関係ということになる。参考として、全国の失業率は3.4%であり改善してきている。大阪の有効求人倍率（9月の季節調整値）は1.2倍で、24か月連続で1倍台以上をキープしている。特に大阪は交通網も発達しており、同一労働市場圏でもあり、大阪市内に働きにいかれる方が多くなっているのが現状である。

しごとを考えると、企業を誘致して、働く場を創出した方がいいのか、住みよい街としてベッドタウンを目指した方がいいのか、議論して欲しい。企業誘致したとしても、市民の方ですべて充足することは難しく、他の市から昼間人口として流入してくることになる。それが市として果たしてよいのか、議論していただければと思う。

政野委員：羽曳野市の有効求人倍率が府の半分しかなく、しかも医療関係が突出して多いことは、特徴なのか、それとも問題点なのか。

油谷委員：今の現状がそうなっているということである。有効求人倍率を上げるために、企業を誘致して、企業城下町的な方向にするのか、住民が住みよいまち、仕事が近くにあることが住みよいのか、子育てがうまくいくことが住みよいのか。方向性が分かれてくるのかなという気がしている。

鶴谷委員：人口増やせば、経済が活性化されるのは誰しもわかる。どうやって取り組んで行くのか、そのアイデア、仕掛けをプロモーションすることが大事である。テレビ番組で取り上げられて、外部に発信されることで、全国から人が集まってくるようなケースもある。内から増やすよりも外から増やすことを考えていかないといけない。大学の社会連携で兵庫県の過疎地域の活性化を学生と一緒に考えているが、まずは、地元の人元気になることが大事で、その仕掛けを大学として提案している。羽曳野市でも地域で有名な人を育てて、そこに人が集まる仕組みを考えてはどうか。

吉川座長：参考資料1の基本目標別事務事業をみると、堅い事業もあるが、面白い事業もやっている。テレビで取り上げられたらPRになると思うが、プロモーションが下手である。戦略の方向性としては、行政なので多方面に目配せすることも必要だが、一つに絞っ

て取り組むことも考えられる。来街者を増やすのか、職場を増やすのか、ベッドダウンとして人が定着することを目指すのか。市としての考えはどうか。

事務局：27年度の施政方針では、観光と教育を重要な事業として位置付けている。大きな土地もないので、企業誘致は難しく、大きな雇用は期待できないが、充実した職場環境を整えることによって、少数精鋭の人が集まる仕組みも良いと考えている。補正予算でも女性や若者の就職支援（地域しごと支援事業）を行っている。金融機関やハローワークで就職のマッチング支援等も行われており、重要な項目だと思っている。

総合戦略の位置付ける事業については、毎年P D C Aサイクルで検証を行い、効果のない事業については廃止して、新しい事業を考えるべきだと考えている。

古墳群や竹ノ内街道等の資源を活かした観光でにぎわったり、安全・安心なまちづくりを進めたり、まちの創生に向けてはいろいろな要素がある。みんながどのように感じるかを見極めながら、シティセールスを含めて、取り組んで行くことを考えないといけない。これまでは、シティセールスがうまくできていなかった部分もあると思うが、戦略の策定を機に取り組んで行きたいという認識は持っている。

山下委員：企業の誘致は難しい部分があると思う。羽曳野市が潤うようにするためには、人がどれだけ訪れてもらえるかが重要である。乗馬クラブを経営しており、会員が1,700人いるが羽曳野市民は1割もいない。観光とは違う、1,000人が月に1回来られる。複数回こられるので、5,000人程度になる。そういう方が、市内で飲食したりすることで、多少なりとも潤っていくのではないかと考えている。

また、都市部から人を呼ぶための施策も検討すべきと思う。大阪市等都市部に人口が流出しているということは、他市の福祉施策の方がよいということも考えられる。福祉系の事業所が多いという特徴を活かし、お年寄りを集めるような福祉施策を考えてもよいのではないか。

油谷委員：福祉系の事業所が多いが、その一方で、成り手がいないことも課題である。福祉業界に対する意識改革が必要である。福祉系の職業訓練などしているが、現状、就職先として眼を向けていただけていない。

坂本委員：全国を転勤しており、九州の支店で働いていた時には、過疎地の起業を支援していた。過疎地には企業がないので、働き手が出ていく。そうすると子供たちも出ていく。金融機関として何ができると考えた時に、産業を興さないといけない。1件でも2件でも新規起業を支援しないといけないといった状況であった。羽曳野市は過疎地ほどの事態ではない。大阪に働きに行くことができるので、雇用もさほど問題ではない。先日説明いただいた人口ビジョンの目標人口を達成するためには、合計特殊出生率を増やすこと、住む人を増やすことを考えないといけない。そこに特化して議論してもよい。仕事の創出、合計特殊出生率の向上、定住人口の増加、3つのテーマがあるが、まずはどれか1つに絞って、議論しないといけないのではないか。

安田委員：観光課とコラボして、2年前より軽トラ市などのイベントを通じた活性化に取り組んでいる。古墳群をメインとしたハイキングも実施しており、800人以上が集まって

いる。また、三重の自治体とは婚活プロジェクトも展開しており、女性に三重県の自治体まで旅行も含めてお越しいただき、出会いの場を提供しており、それなりの効果が得られている。羽曳野市でも今後いろいろなイベントを企画していきたいと思っている。

吉川座長：ハイキングで気になったが、古墳群の周辺に面白みがない。メジャーになろうというのはよいが、面白い仕掛けがあるとよい。古墳群の周辺に面白い仕掛けがあると、古墳に頼らずとも、羽曳野市のブランドをつくっていきけるのではないか。

養毛委員：羽曳野市に通勤している者としての意見だが、近鉄阿部野橋駅から20分かからず、西名阪高速道路等があり、交通利便性の高い地域である。赴任するまでは、羽曳野市は遠いイメージを持っていたが、自分が通勤するようになってものすごく便利だと感じている。お取引先でワインつくっている事業所もある。人は時間的制約もあり遠いところには行きたがらない。近くにこれだけいいものがあることは、強みではないかと思う。ただ、金融機関側からしたら、都市計画との兼ね合いで市街化調整区域に企業等が立地できないことは歯がゆい。

政野委員：東成区や東大阪あたりは、もともと町工場だったところに住宅が侵食してきており、操業しづらくなっている。工場の代替地がないため、大阪ではなく奈良県等に移転している例がある。一方、八尾市は外環沿いを開発して工場を誘致しており、箕面市も山を切り崩して企業誘致をしている。日本の中小企業は、現状地で操業しづらくなっており、代替地となる受け皿が必要である。羽曳野市のアクセスは決して他の市に劣っていないポテンシャルがあるにもかかわらずそれを生かし切れていない。そういう工場は求人数もあり、職住接近を考えると、必然的に、家の近くに働く場所があつて、子育てでも安心できれば、羽曳野に住む人が増えると思う。羽曳野市に転入する人の理由の多くは、実家が近いからなどだと思っている。別の市から降ってわいたように、地縁血縁ない人がどれくらい移住してくるのか。住宅ローンの属性みると、よそに住んでいたが、羽曳野市が実家なので、家を買いますという人が圧倒的に多い。逆に吹田市や茨木市は、そういった人は少ない。ではなぜ、茨木市や吹田市を選んだかという点、便利だから、住みやすい、イメージもよいからといった理由が多い。一方で、羽曳野市が現状そういう市になっていないということは、土地の利活用についての考え方が違うのではないかと考えている。1～2年では改善はできないが、見直すきっかけではないか。総合戦略の策定は、国から降ってきて、どの市町村もやらないといけないと思うが、よくよく考えれば、各市が人口減って困っているのは事実なので、これをきっかけに、市の問題を一緒に考えて、よい政策ができればと思っている。

上藪委員：人口を増やすのに、魔法の杖はない。人口を増やすためには市町村間の取り合いになる。それよりも観光インバウンドで、にぎわいのまちをつくることを優先的にすべきだと思う。大阪で住みよいまち全国ランキングの上位に入っている市は、箕面市と大阪狭山市である。なぜ住みたいかという点、街並みが綺麗、道が綺麗などであり、行政サービスが良いことはあまり条件に入っていない。羽曳野市は自然豊かな宝の山で

あり、大阪みたいな派手なことをするのではなく、風土に合ったものを利用して、それを題材として人が来てくれるような仕組みをつくっていききたい。議員の前はアパレルの経営者をしており、いろいろな所へ行ったが、印象に残っている地域として、長浜の黒壁スクエアがある。古き良き時代のものを利用して、そこにブティックなど、若い子が集まるような新しいツールが入っている。和洋折衷ではなく、新古折衷であり、羽曳野市としても、カラーを決めることが必要である。糸偏の漢字はよくできていて、糸偏に色で「絶」となる。色を間違えると絶滅するということである。出生率などは国の政策がからんでくるので、1自治体でなかなか進むものでもない。まずは、市のカラー、何を売りにするのかを決めていくのが先決ではないかと思う。

吉川座長：各委員が言われていることは共通性があり、戦略の方向性の共有はできているような気がする。

金銅委員：起業誘致は、駒ヶ谷に住んでいる。休耕地が増えて、後継者がいない。ブドウ、一世を風靡したが、地元農家の考え方も踏まえて、駒ヶ谷の駅沿い、500mの市街化調整区域の見直し等もうまくいかない。企業誘致はやはり一足飛びにいかない。土地があっても魅力を創っていかないと飛びついてこない。すぐには難しければ、やはり、羽曳野市の特長である恵まれた自然、特に駒ヶ谷には、竹ノ内街道が通っている、壺井八幡宮などもある。子育てのしやすい市、高齢者にやさしい市、住みたい羽曳野、これからも住み続けたい羽曳野、行政にいる立場からすると、ご活躍されている委員のみなさまから、よいところなども目覚めさせていただいて、それを活用しながら、羽曳野に来ていただいて、みなさんで見つけていただけるような進め方をさせていただきたい。

西委員：総合基本計画の策定にあたっての市民ワーキング会議の代表になっており、会議では、こんな羽曳野市にしたいというようなアイデアがたくさん出た。終わるときに、これをお偉いさんに報告するだけで終わらないでほしいと言ったが、どれくらい盛り込まれるかは未定である。総合戦略についても、アイデアがたくさんあると、前回の会議で言ったので、それをまとめていたが、お偉いさんに報告するだけとなる不安もある。項目だけでも十数個あり、お金のかからないものもある。普通、企業が決めるのであれば、例えば、空家があれば、利用した方がいいに決まっていて、空家を活かすプロジェクトチームをつくって、そこで意見を集めて、この場に持ってくるのが普通ではないか。議論する内容が幅広いため、何も言えないし、何も決まらないのだと思って聞いていた。ここで決めたことを実施するために使えるお金は10,000千円なのか。

事務局：計画の策定にその金額が交付されている。今後の予算については、平成28年度から何に取り組むかによるもので、この会議はその部分の骨格を決める事前の会議である。

西委員：例えば、10,000千円しかないのであれば、全部の小学校にクーラーをつけて欲しい。また、英語の話なども出ているが、たとえば羽曳野市の子ども全員が英語ペラペラになれば、羽曳野市の小学校に行かしたいという保護者が移り住んでくれるかもしれない。九州に体育の優れた幼稚園がある。私も見たとき、引っ越してでも入れたいと思

った。それぐらいの目標をもって取り組むことも必要では。

企業の誘致については、羽曳野市に事務の仕事が少ないので、大阪市内にあるコールセンターで働いている。机とパソコンがあれば、どこでもできる仕事であり、古市の駅前などにもつくれるが、バスが少ないため、同僚を通わしたいとは思わない。

中川委員：世界遺産に登録されれば、店も増えるだろうが、トイレなどの整備ができていない。また、調べてもらえればわかるが、羽曳野市には産婦人科の病院が他市に比べて少ない。出産するにしても、他市で産む方の方が多い。

油谷委員：インターネットを見ていたら、子育てしやすいまちとして、府内で藤井寺市が4位に入っていた。このようなランキングの順位を上げることも必要かなと思った。

黒川委員：ベッドタウンか企業誘致かという議論については、現状ベッドタウンであり、そこを外して企業誘致はないであろう。資料1で一番大事なのは、ブランディングである。地域そのもののブランド化、魅力あるまちづくり、自信を持って住んでいると言えるまち、京都や神戸のようなまちづくりを進めていくことではないかと感じた。子育てしやすいまちや、住みやすいまちなど、ランキングを気にすることも大事である。点数化される指標を高めることに向かって施策をすることも重要である。

軽トラ市で、アンケートとったりしているが、誇れるものがないという回答が多い。ナンバーワンがなく、何もかもが中途半端だが、それを売りにしてはどうか。大きくもなく、小さくもなく、ちょうどよいまち、都心から遠くなく、過疎地でもなく、町工場もあって、農業体験もできる。ナンバーワンは少ないが、ある程度そろっているまちでもいいかなと思った。

鎌谷委員：卒業生を地元で根付くことを考えたが、就職となったら、企業数が少ない、企業の誘致が問題となるが、ただ誘致するのは難しい。羽曳野市が、高鷲、恵我之荘、古市、どこが基本になるかといえば、阿部野橋から20分でこれる古市駅。だが、降りてから動けない。駅前のステーションプラザ、宿泊施設等の誘致が第一じゃないかなと思う。人が来れば、育つ、産業が盛んになる。農業に関しても、農業大学にて研修をさせていただくとか、養成をしてもらおうとか、話の持って行き次第では基本から学ぶことも大事かなと思った。

黒川副会長：混乱して、同じような意見が出てくる。少子化のことなど、どの市においても同じ悩みだと思う。少子化、人を集めるのに、なんでもする、福祉に対してもなんでもする。それやったら、羽曳野に来る。簡単には言えるが行政の財政が持たない。羽曳野は電車・高速道路もあり非常に便利がいいところである。そういったところからすると、どうすれば来てもらえるのかを考えることが大事。人口が減っていくことは当たり前前のことと考え、外から観光、外国からも来ていただく活性化を求める方法もあるのではと思う。

鎌谷委員：羽曳野市は世界文化遺産の登録を目指していると思うが、観光案内は、英語でやったり、中国語でやったり、コンシェルジュのような方がどれくらいおられるのか。地図を見て行ってくださいというのは少し違う。案内できる方がおられるかどうかポイ

ントである。それが魅力ある観光のスポットになるのではないかなと思う。

黒川委員：パンフレットは、日本語を含め4か国語のバージョンを作成している。古市駅に新しい観光案内所はできているが、市内を案内する人はまだ配置できていない。

上藪委員：宇治市に視察に行ったが、世界遺産に登録されている平等院があり、特産品の抹茶や、宇治川では全国的に珍しい女性の鵜飼が2名いる。宇治市では、観光案内所が駅前にあり、外国語で案内できる人が十数人おられた。どのような方が多くきているかも分析しており、台湾だったそうである。台湾では抹茶スイーツのブームがあるらしく、それがわかれば、台湾へプロモーションをかけると効果的であり、戦略を立てることができる。

鶴谷委員：松原市は観光のイメージはないが、地方創生の取組で、観光案内人を養成しようとしている。観光の切り口は、行く場所も大事だが、その人にまた会いに行き案内をしてもらいたいということも大事である。案内をしてもらえれば、また来たいと思うし、何回も訪れることになる。そういったまちづくりをしていかないといけない。そのためには人づくりが重要だと思う。

大学の国際観光学部の学生が、西成のあいりん地区で観光案内の運営を、語学力の向上とあわせて行っている。日本人は怖くていかないが、安宿を海外のバックパッカーの方が利用している。2000円で泊まれるところに泊まって、京都等に観光に行っている。

坂本委員：西成の簡易宿泊所が外国人の宿泊先としての受け皿となっていて、そこをNPO法人がコラボレーションしていて、富田林の寺内町など、府内の観光地を案内している。その案内先のリストに羽曳野市内の資源が一つも入っていない。もしかすると、ちょうどいいところまでもっていないのかもしれない。そうであれば、ちょうどいいところをつくらないといけないし、売りとなる資源を内部で高めていくことと、外部から来てもらうために、外部に周知していかないといけないと感じた。

吉川座長：今後、どのような形で進めるのか。

事務局：次回の推進会議を11月下旬から12月初旬に開催させていただきたいと考えている。

重点化してはどうかという意見をもらったが、事務局としては3本の柱はどれも大事だと思っており、委員の皆さまから頂いたご意見も含め、事業を落とし込んだ資料を作成し、次回お示しをしたい。

坂本委員：そういった意味では西委員はまだ、言いたいことがあるのではないかな。

事務局：資料を作っていたらいいのであれば、ご提出いただきたい。本日お配りしたアイデア集も、この何倍ものアイデアから抜き出して整理したものである。また、これだけをやるのではなく、既存事業として平成26～28年度の事業を抜粋しているが、これらについても、拡充できる部分は拡充しないといけない。最終的に、どのように見せていけるかが大事だと思っている。ブランド力の向上も大事であり、市民一人ひとりのモチベーション、誇りの持ち方によってブランドに磨きがかかる。まずは、市民の方に羽曳野市を知ってもらうことも大事だと思う。市民が知らないことを市外に



は出せない。いろいろなご意見をいただいて、全部どりはできないかもしれないが、うまく使ってまとめていければと考えている。予算が潤沢であれば、行政としてすべて充足できる環境はつくれると思うが、それですべての市民の方が満足できるかといえは違う部分もある。補助すればするほど、もっと欲しいとなるところもある。今お話しいただいていることは、予算を度外視して、意見をいただいており、新鮮なものである。総合基本計画、市民ワーキングに参加いただいて、ご意見をいただいているが、それも、まち・ひと・しごとの事業に落としつけていけると思っている。前向きにご意見をいただいているので、それを上手にまとめながら、11月末にもう一度、お話しをさせていただきたい。

西 委 員：例えば公園の意見があった時に、それを公園の所管課に伝えて、検討をして、だめならこのような理由でだめだったということまでしてくれるのか。

事 務 局：この会議では、委員としての立場で参加いただいていると認識しているので、この場を使ってすべての意見にお答えすることはできない。

西 委 員：市民ワーキングでたくさん出た意見は、どこかの課に持って行って話し合ってくれたのか。

事 務 局：各会議を通じて、各部長、課長にお示しをしている。

西 委 員：持って来たら、持ってきただけにならないか。

事 務 局：それは中身による。100個の意見、すべてを現課に伝えないといけないものなのかの判断は必要である。

吉川座長：西委員のアイデアは、この戦略に関係することなのか。

西 委 員：人を増やさないといけないと思ったから、それに関わることを考えている。古市の駅前に花置く事業も含まれているが、置いたからと言って、住もうかとは思わない。

吉川座長：人を増やすアイデアであれば、委員会の意見として吸い上げてくれるのか。

事 務 局：もちろん、吸い上げさせていただく。

吉川座長：3つの柱に分けての話は、行政的な発想であり、この3つに沿って事業化の議論をすることは、この委員会にはなじまない。例えば、ブランディングに絞って意見を出していくことはできるが、この3つの柱で、推進会議として、なんらかの答申をまとめることは難しい気がする。前回、今回のいろいろな意見を整理していただいて、事務局でまとめて欲しい。

鶴谷委員：この会議の落としどころだが、これまでのようにフリートークを進めて、羽曳野市がまとめるのか、各回の落としどころを決めて議論するのか。普通の会議は案を考えてそれに沿って議論することが多いが、その点はどうなのか。

吉川座長：その点をイメージできていない。落としどころはいらないと宣言していただいた方が気楽に議論を進められる。

油谷委員：アイデア集が出てきているので、少しややこしくなっているが、戦略を決めて具体化するのには行政であり、重点戦略を決めていくのがこの推進会議の役割ではないのか。

事 務 局：そうである。具体化するための事業のアイデアなどが、みなさんからいただいたもの

を加えて、まとめていきたい。

中川委員：農地が、準工業に変更すれば、工場の誘致ができる。地目の変更などは、できないのか。

事務局：簡単には変更できないであろう。

政野委員：高齢化しており、後継者がいない。イチジク、ブドウ農園については、今後、今の生産規模を維持できない。ブランディングするのであれば、担い手どこに持って行くのか、法人化するのか。法人化すれば雇用は生まれる。その取り組みは行政だけでは難しく、民間の力を借りる必要がある。農業を頑張ると言い切る、住みやすい街にしますと言い切る、この場では大項目ぐらいしか決められないと思う。

坂本委員：私たちが決められるのは、大きな項目であり、それは戦術ではなく、戦略レベルである。私たちの意見を踏まえ、市が具体的なアクションプランを練ることになる。委員会としてはそのような位置づけでよいのではないか。

事務局：委員会で意見をいただきたいのは、重点項目までである。アクションプランを別に示すといったが、各項目に応じて、どういった取組を進めていくかについては、イメージしながら項目立てしている。素案については、推進本部で策定することになるので、推進委員会の意見を踏まえた案を作成し、次回お示ししたい。

鎌谷委員：卒業生がどうすれば、地域に根付いて、その子どもが大学に入ってくれるか、考えてみた。人を考えた時には、就職する場所がないといけない。それよりも、まず、羽曳野市の住みよいまちづくり、魅力あるまち、あるものを活性化させるだけで、ある程度フォローできるのではないかと思う。羽曳野市には大型スーパーがなく、ホテルもない。古墳があるにもかかわらず、足の不自由な方はいけない。人力車などあれば、古墳周りもできるのではないか。若者の育成プロジェクトも考えた時に、ブドウとイチジクがある。体験を考えると、住むところがあって、それに従事できて、かなり行政も住宅確保的などころから係ってもらわないといけないと思った。古市駅については、とにかく車の乗り入れができないのが現実だと思う。バスロータリーを確保して、車が上手く回れるシステムできないかと思っている。羽曳野市に通り始めて40年以上たつが、変わっていない。道はよくなったと感じるが、駅前が整備されていないために、不自由な場所となっている。その点、何か考えられないかなと思う。

上藪委員：羽曳野市は、まちのイメージがない。藤井寺は球場があったし、富田林はPL学園やPL花火がある。また、羽曳野の名前の駅がない。古市（羽曳野）など、に変更できないか。

安田委員：私の知る範囲では、由緒ある古市の地名、なじみある地名を変えたくないという地元の意向があったと聞いている。

政野委員：近鉄サイドとしては、変更してもよいのか。

金銅委員：変更するには、案内板等を変更する必要があり、ものすごくお金がかかる。

黒川委員：以前は1億円あれば、変えるといわれた。当時、お金がなかった。近鉄がいいですよと言っても、地元の方は反対すると思う。それなら、古市の人が反対しないように、

羽曳野古市駅としてはどうかという議論があった。

上藪委員：イメージが弱いのは、羽曳野の名前が付く駅がないことが原因と考えている。

政野委員：羽曳野駅に変えることは、地元の方は反対で、羽曳野市全体で考えれば賛成と、市中でも合意形成が図れてないことになる。

黒川委員：阿倍野から羽曳野に行こうと思って切符を探しても、駅名にないため、羽曳野に行くにくい現状がある。

金銅委員：羽曳野高校と西浦高校が統廃合して、羽曳野の名前がつく施設がなくなった。出身校がなくなるのは、OBにとってはつらく、どちらか一方だけがつらい想いをするぐらいなら、学校名を変えようということで、懐風館高校という名前になった経緯がある。

黒川委員：市内に羽曳野の名前の付く公共施設がほとんどない。

養毛委員：古市という名前が根付いており、弊行の支店名も古市支店である。

政野委員：弊行では、平成4年に羽曳野支店に改名している。

重点項目に「地域経済の活性化をリードする企業等の支援」とあるが、どのようなことを考えているのか。税制優遇まで考えているのか。

事務局：ワークライフバランスの取組などを推進する企業に対して、企業のPRであったり、何らかの形で支援等を考えている。現在の所、税制優遇までは考えていない。

政野委員：税制までは考えていないのか。

事務局：そこまで、考えていない。

政野委員：認定を受けた企業については、融資金額が増えるなどか。

事務局：松原市がやっていることも参考にはできるのかなと思う。

政野委員：我々銀行の支店は、それぞれの地域を地盤に営業させてもらっている。まちの人口の規模が縮小し、事業所数が減り、業績が落ち、市民の収入が減り、暮らしぶりが悪くなると、支店の業績に直結する。銀行としても、活気づくための支援は惜しまない。

事務局：総合戦略についてはどこの市町村でも策定することが義務付けられている。行政だけで考えることもできなくないが、市民さんの意見が入っていないといけないということで、産官学労言の各界の方が参加する委員会を設定している。皆さんの目から見て、足りないもの、こういう観点抜けているのではないか、といった意見をいただいて、最終的に我々がまとめるのが、この会議の在り方だと思っている。せっかくたくさんの方がおられるので、我々が思いつかないアイデアを、出していただけるとありがたい。

吉川座長：行政の目線で3つの柱を立てておられるが、それに対して自由な意見を出し、それを吸い上げてもらうしかない。次回、バージョンアップしたものをご提示いただき、さらにそれに議論を加えていく形としたい。

鶴谷委員：歴史、お茶のブランド化等で活性化している宇治市や、住みやすい環境づくりで人口が増加している滋賀県など、地方創生に取り組んでいる先進地を視察してはどうか。

山下委員：産婦人科がないとか、託児所が不足しているなど、羽曳野市が抱えている問題点があると思う。問題点があって、それをどう改善しようとしているのかがわかれば、議論

もしやすいと思う。何もない状態で意見を出しても、焦点があってこない。そこから初めてもいいのかなと思った。

事務局：総合基本計画策定にあたり作成した基礎資料があるが、今ご指摘頂いた部分までは含まれていない。

吉川座長：とりまとめは事務局にお任せしながら、今後も議事を進行させていただければと思う。

(3) その他

次回会議の日程 11月29日(日) 時間については書面にてご案内する。

(4) 閉会